



# 輝け！北っ子

令和元年9月4日発行

9月号

発行責任者 紺野 宗作

## 子ども達とあいさつを交わす中で・・・

2学期がスタートしました。始業式では、あいさつがしっかりできる子になってほしいことをお話ししました。毎日、子ども達とあいさつを交わす中で、とても私の心に響き、私の心を温かくするようなあいさつをする子どもがいます。「何が違うのだろうか？」と改めて考えました。そうすると下記の4つが違うことに気づきました。

「先」・・・私を見つけると「校長先生！」と呼び止め、「おはようございます」とあいさつをする子どもがいます。そんなとき私の心はホッコリします。

「声」・・・「おはようございます・・・」と言葉がはっきりせず、もぐもぐ。声が小さいあいさつだとあいさつを交わしたような気分になれません。相手に伝わる程度の声の大きさだとあいさつを交わして気持ちいいです。

「目」・・・あいさつはしているのですが、私の顔を見ず目をそらして通り過ぎることがあります。こんな時も、なんかあいさつを交わした気持ちになりません。子どもが背の高い私に上目遣いで私を見てあいさつされると心が通い合った気分になれます。

「笑」・・・私も笑顔が足りないと自覚しているのですが、子どもの笑顔に何度もつられて自分が笑顔になったことがあります。

あいさつは顔の表情、声の高低、音調、抑揚、タイミングなどで微妙に相手に与える印象が違います。それは人から教えられたり、本で読んだりして即座に身に付くものではありません。日常生活の中で習慣的に皮膚感覚で身に付ける部分が多いのだと思います。人に好感を持たれるあいさつは子ども時の家庭や学校環境に大いに影響されます。人は誰でも人間同士のコミュニケーションの中で生きています。その最も有効な道具が「あいさつ」です。あいさつが上手に出来るか否かで人生が左右されると認識し、今後も学校では「あいさつ」を指導の重点として力を入れていきたいと思っています。

## 合唱・合奏の活動から・・・



私が小学校の時は音楽が大の苦手で、鼓笛も後ろの方で隠れるように行進したことを思い出します。しかし、今は音楽が大好きです。そんな私に変えてくれたのが、今まで出会った子ども達です。先生と一体となり、コンクール等に向け音楽を創り上げる子ども達の真剣なまなざし。そんな子ども達の姿に何度も感動しました。本校の合唱・合奏の活動ではいつも子ども達が輝いています。

私も、このような体験を小学校のときに味わったかと思いつつ、いつも応援しています。

# 「子どもが育つ魔法の言葉」

夏休みに家の本棚の整理をしていたら、ドロシー・ロー・ノルト博士が書いた「子どもが育つ魔法の言葉」という本がでてきました。すっかり忘れていたのですが、自分の子どもが小学生の時に購入した本だと思います。先日、この本を読み返してみました。自分の子育てをふり返り、改めて考えさせられました。その中の「子は親の鏡」という詩を紹介します。

「子は親の鏡」

ドロシー・ロー・ノルト/訳・石井 千春

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる  
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる  
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる  
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもはみじめな気持ちになる  
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる  
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる  
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう  
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる  
広い心で接すれば、キレる子にはならない  
誉めてあげれば、子どもは明るい子に育つ  
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ  
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる  
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる  
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ  
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る  
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ  
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ  
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ  
和気あいあいとした家庭で育てば、  
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

この詩に書いていることは、すべて合点がいく内容であることを改めて感じます。しかし、読んでいくうちに、自分自身の子育てに対する後悔の念が込み上げてきました。同時に、そんな簡単に子育ては理想通りにいかないと感じる気持ちも湧き上がりました。

親なら誰もが、この詩のような子育てをしたいと考えるでしょう。しかし、「愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ」とこの詩に書いてあったから、愛情表現として抱きしめるようにしたいではなく、「子どもがかわいくて仕方がないから、ついつい抱きしめてしまう」という無条件の愛が子育てには大切なのだと思いました。